

(様式1)

北海道遠別農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和8年度に重点化する取組及び具体的方策		
5つのミッション 8つの行動計画		行動計画の中で重点化する取組	目標達成 期 間	具体的方策
I グ ロー カ ル 教 育 で 人 材 を 育 て る 学 校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	○プロジェクト活動をととして、各教科・科目で学んだ知識や技術を体系的・系統的に理解し、相互に関連づけられた技術を身に付ける。	A	(1)農業科目全体の指導計画を達成するための、基礎・基本の定着及び教科横断的な指導の充実 (2)科目内で行うプロジェクトのテーマや研究内容の明確化及び取組の充実
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	○海外農業研修を通じて、海外の食や文化、農業などに関する知識を実践的・体験的に学習する。	B	(1)農業の専門科目における国内及び外国の食料事情、文化などの事前学習の実施 (2)職員間での情報共有による他教科との教科横断的な指導の充実
II 地 域 社 会 ・ 産 業 に 寄 与 す る 学 校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	○これから地域農業を支えていく若い農業者や農業改良普及センターと共同で、地域農業について考える機会を設ける。	B	(1)農業青年者会議（4Hクラブ）とのトークセッションの共同開催による地域の農業課題の把握及び考察 (2)地域農業者と連携した湛水直播プロジェクトの実施
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	○地域の特産品になるような商品開発やふるさと納税の返礼品への協力方法について探究する。	A	(1)地域の特産品を意識し、商品のニーズ、マーケティングに関する学習機会の増加 (2)本校の生産物を返礼品として出荷することで遠別町の魅力の発信
III 地 球 環 境 を 守 り 創 造 す る 学 校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	○農業や家畜糞尿による汚染などの環境負荷について正しく理解し、持続可能な作物の栽培や家畜の飼養管理を実践する。	B	(1)有機 JAS 認証に関する学習について、生徒が主体的に行えるよう授業展開の工夫 (2)家畜糞尿の効果的な利用方法や、輪作体系の整備等による学校農場の適切な管理の実施
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	○コミュニティースクールでの協議を踏まえ、地域活性化のための具体的な方法を明確にする。	B	(1)CS(学校運営協議会)で得た意見を活用して具体的な取組を実施 (2)本校の生産物や地域の未利用資源の活用に関する授業の実施
IV 拠 点 と な る 学 校	7 「Society5.0 の時代に応じた教育」を行います。	○ICT を活用したスマート農業を実践し、データを集積するとともに、地域への技術還元と情報発信を活発化させる。	B	(1)水田の自動水位設定装置や羊舎のウェブカメラ及びドローンの活用 (2)1人1台端末の利用による効果的な農業学習の実施 (3)小学校や中学校との交流学习による異世代交流の実施
V 地 域 防 災 を 推 進 す る 学 校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	○各種自然災害に対して適切な対応が取れる能力を育てる。 ○火災等の人為災害を未然に防止する。	A	(1)危機管理マニュアルの活用等による生徒自身の危険回避能力の向上 (2)年2回の防災避難訓練の実施による自分の身の安全を確保する行動の定着

(様式2)

北海道遠別農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和8年度に重点化する取組及び具体的方策			
5つのミッション 8つの行動計画		行動計画の中で重点化する取組	実現状況	具体的方策	評価
I グローバル教育で 人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	○プロジェクト活動をとおして、各教科・科目で学んだ知識や技術を体系的・系統的に理解し、相互に関連づけられた技術を身に付ける。	観察や実験・実習をとおして実践力が身につくよう記録や振り返りに重点をおいたプロジェクト学習	プロジェクトで身につけた実践力を授業内で生かすことができる生徒の育成が必要である。	5
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	○海外農業研修を通じて、海外の食や文化、農業などに関する知識を実践的・体験的に学習する。	海外研修の中で農業施設の視察や文化に触れることで国際的視野を持つ生徒の育成に繋がった。	海外研修で習得した視野を課題解決に活かすことができる生徒の育成が必要である。	4
II 地域社会・産業に 寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	○これから地域農業を支えていく若い農業者や農業改良普及センターと共同で、地域農業について考える機会を設ける。	「ファーマーズトーク in みるもい」に参加し、4Hクラブと意見交換で地域課題の解決やプロジェクト中間発表を行い、質問や意見を頂いた。	参加する時間の調整や学校での農業学習と地域農業との繋がりを持たせた事前学習の実施、事後指導の充実が必要である。	5
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	○地域の特産品になるような商品開発やふるさと納税の返礼品への協力方法について探究する。	羊肉まんを開発し、販路拡大することができた。ふるさと納税の返礼品として、メロン、米、タマネギ、ペリーラを提供し地域貢献につながった。	現在開発中の製品の完成と、生産品の品質向上することが出来るよう取り組む必要がある。	4
III 地球環境を 守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	○農業や家畜糞尿による汚染などの環境負荷について正しく理解し、持続可能な作物の栽培や家畜の飼養管理を実践する。	「作物」の授業で有機JAS認証に関する学習を授業の中で展開することができた。	地域資源の活用や地域振興の取り組みが、一部の生徒にとどまっていた	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	○コミュニティースクールでの協議を踏まえ、地域活性化のための具体的な方法を明確にする。	総合的な探究の時間でプロジェクトテーマにおいて地域資源の活用について取り組む事で、地域振興に関する興味関心を向上させることができた。	地域資源の活用や地域振興の取り組みが、一部の生徒にとどまっていた。	4
IV 拠点となる学校の 地域交流の	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	○ICTを活用したスマート農業を実践し、データを集積するとともに、地域への技術還元と情報発信を活発化させる。	水田の自動水位設定装置や羊舎のカメラの活用で適切な管理体制を構築することができた。ドローンによる湛水直播試験を実施することができた。	学校がICT技術をはじめとする先端技術を学ぶことができる場となり、地域に還元していけるよう取り組んでいく必要がある。	4
V 地域防災を 推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	○各種自然災害に対して適切な対応が取れる能力を育てる。 ○火災等の人為災害を未然に防止する。	学校安全計画や危機管理マニュアルの見直し、点検を実施し「一日防災学校」を開催し、危険を予知、回避する能力の向上に繋がる取組を行った。	生徒が地域防災について自ら考え計画し行動できる体制を構築する必要がある。	4